

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0150480036), 法人名 (医療法人 北武会), 事業所名 (グループホーム ほくと すずらんユニット), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2-5), 自己評価作成日 (平成24年11月1日), 評価結果市町村受理日 (平成24年12月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一階には医療法人の内科クリニックとの医療連携、専任看護師によるオンコール対応等、利用者様ご家族様にとっては安心頂いています。又ワンフロアに2ユニットがあるため、昼夜共にお互い協力し合っています。日々のレクリエーションの他に、年に数回大きな行事としてホーム全員での外出行事や、ボランティアによる演奏会、月に一度外部より講師を招いてフラワーサークルの開催等、張りのある生活が送れるよう工夫しています。又生活状況・行事案内など記載したお便りを毎月発行し、ご家族様・知人等気軽に面会しやすい家庭的な雰囲気作り、笑顔、笑いの絶えないあたたかい生活をモットーに職員一同心がけております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosisp/information/public.do?JCD=0150480036&SU=D=320&PCD=01)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成24年12月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR手稲駅から徒歩7~8分、バス停が目前にあり交通の便が非常に良く、訪れやすい場所にあり来訪者も多い。建物は3階建てで、1階は同法人のクリニックで通常受診の他、休診時や夜間時には専任看護師による24時間対応となっており医療連携体制は充実している。3階のワンフロアに2ユニットがあり、朝夕のミーティングは全職員で行い、職員は一人ひとりの利用者のことをたとえわずかでも知識として把握でき、職員同士が協力し助け合える環境にある。地域との関わりは深く、行事などの交流も盛んに行われ、防災に対しては特に熱心で、すぐ近くにある消防署も含めた協力体制が出来つつある。利用者・家族へのアンケートを年2回実施しており、意見、要望をよく聞くようにして、信頼関係を深めている。家族が来訪した時には必ず一緒に写真を撮り、家族との絆を大切に心にとり添った支援をしている。職員の明るい挨拶と笑顔が印象的で、穏やかな雰囲気のなか個々の利用者を大切にして、希望に沿った支援ができるよう、日々心掛けてチームケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族、大切な人と交流が図れ、地域社会の一員として生活が送れる暮らし」と理念を有し地域社会の一員としてその人らしく満足した生活が送れるように理念の実践に向け一人ひとりに合ったケアをしています。	事業所理念をパンフレットに掲載し、事務室・廊下にも掲示している。職員は理念を明示したカードを携帯し、常に意識して日々のケアに努めている。会議において取り組みが出来ているか話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しホーム便りを回覧して頂いています。手稲区ふれあいフェスティバルの見学も受け入れ、自衛消防訓練に地域の方にも参加頂き少年消防団による消火訓練も行っています。	町内の人々にホームでの生活を知ってもらえるよう「ホーム便り」を回覧している。ふれあいフェスティバルに参加し、地域の方の見学も受け入れている。町内行事の運動会に参加したり、子供達とも交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを町内会に回覧しホームの日常生活、地域を活用している様子、ボランティアによるサークル活動の実施等、認知症の方の理解を地域の方を通じて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全家族に開催案内を送付し2ヶ月に一回開催している。参加できない家族から意見収集に努め、事業計画、報告、行事報告、外部評価報告を行い議事録は全家族に送付し、町内会に回覧すると共にホーム内にも掲示している。	町内会長、民生委員、包括職員、ご家族の参加があり、事業所の報告の他、活発に意見の交換が行われサービスの向上に活かされている。会議録は全家族に送付、ホーム内に掲示、そして町内にも回覧して取り組みの周知に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の担当職員とは利用者のごこと、問題発生時等、都度相談している、包括の職員には運営推進会議に出席頂き、ご意見アドバイスを頂いている。又ふれあいフェスティバルに参加し協力体制を築いている。	日頃から密に連絡を取り、包括職員には運営推進会議に参加してもらい、事業所の取り組みを伝えている。又、年に一度、区が開催するふれあいフェスティバルでは福祉施設見学の受け入れを行い、協力関係を築いており、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、日勤者退社後20時に防犯のため施錠している。又職員を社会福祉協議会主催の「身体拘束廃止について」研修会に参加させ、伝達研修にて職員全員が理解し取り組んでいる。	マニュアルが作成されており、すぐに見ることが出来る場所に置いている。研修会には積極的に参加し、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会福祉士会主催の「高齢者虐待防止」研修会に参加させている。又認知症GH協会主催の職員研修にも参加し、研修後は伝達研修にて全職員に意識付けを行い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の利用者が入居されており、成年後見人の契約手続き中のため制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ説明を行い、質問にも安心して頂き同意を得ています。退居による契約解除も同様に説明と同意・選択に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族の意見は、意見箱を設置している。又口頭による要望などは随時確認し、迅速な対応を行っている。又年2回アンケートをとり意見、要望を伺っている。	入口には意見箱を設置し、ご家族の来所時には常に問いかけ、確認している。又、年2回利用者及び家族へアンケートを実施して意見、要望を伺い、職員会議で話し合い、反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時や職員会議、又上司との面談などその都度、職員の意見や提案を聞き話し合っている。	ユニット合同で行われる毎日朝夕のミーティング時や月に一度の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けて話し合っている。又、年1回個人面談も行って反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望の受け入れ、資格取得の奨励として、外部研修は勤務扱いとし費用も法人負担し、向上心を持てるようにしている。資格に応じた業務内容や給与水準に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人合同研修会に参加している。ホーム内研修は年間計画を立て、毎月実施しており、外部研修は職員に応じたものを受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市及び手稲区の管理者連絡会議には、必ず出席し情報交換をしている。又ホーム主催のサークル活動や行事に参加頂くなど事業所系列での活動を通じ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の電話相談や、本人によるホーム見学で雰囲気や十分に感じて頂き、又本人と面談し不安や困りごと等緩和し利用開始時では本人に寄り添い心穏やかに過ごせるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得行くまでホームを見学して頂き、その際お話しを伺い家族の要望等汲み取り、又サービス開始時、都度来訪時や電話でも相談・報告を行い不安を取り除けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望であっても、身体状況、生活状況により他の施設サービス利用を含めた対応に努めている。又同法人の相談員に連携事業所への紹介なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる力を活用し、日常生活に取り入れ家事全般のお手伝いをして頂いている。人生経験・生活歴などから共に寄り添い支え合う関係が築けるよう、花や野菜の育て方又漬物の漬け方も教わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に入居者様の身体状況などを伝え、時には通院介助を行って頂いている。又本人が不穏時家族の面会の増減で気持ちの安定を図るよう相談しながら一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人がいつでも来訪できる雰囲気作り、葉書や電話等馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。又盆や正月等自宅への外泊等で家族関係の継続を支援している。	来訪者は多く、気軽に訪ねてくれる雰囲気作りに努めている。家族と馴染みの美容室に行く人もいる。電話や年賀状等お便りのやりとりを支援して関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や利用者同士の関係を日頃から把握し、居間や食堂の座る場所を考慮し和やかな関係が築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内での施設入居や、入院のため退居された方には、その後面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いや希望があることの認識のもと、日々の生活の中で本人の意向を把握する努力をしている。困難な場合は家族からの情報、生活歴を参考にしている。	担当者が決まっているので、日々の生活の中から思いや意向を把握し、職員で共有している。利用者や担当で外出に出掛けるなどして関係を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、センター方式を活用し本人聞き取りや、ご家族情報をもとに職員間で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりをよく観察し、ご本人の生活パターンやその日の体調に応じた現状を把握し、又入居者がその日どのように生活したか申し送りで情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り本人やご家族の意向を確認し、カンファレンスを行い計画作成者と、担当職員によるその人に見合った介護計画を作成し、説明同意を得ている。	本人・家族の意向をもとに職員で検討し、申し送り時の情報なども参考にしてその人らしい暮らしの実現に向けた介護計画をチームで作成している。定期的にモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別記録に記入し、問題点や改善策が生じた時には、センター方式を活用し計画の見直しに活かし、又個別記録とは別に引き継ぎノートにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特養・事業所内の老健の浴室を使用したり、交流行事を企画するなど事業所の機能を活かしサービスの充実、向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フラワーサークル講師、手芸ボランティアの受け入れや、音楽院によるボランティア演奏会の催しなど、楽しみながら豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックが協力医療機関でもあり、かかりつけ医でもあるため、日常の健康管理や特定健診等を受けている。クリニック休診日や夜間は専任看護師によるオンコール対応と訪問歯科診療による治療や指導を受けている。	医療体制が整っている点を重視して入居される方が多いため、殆どの方が1階の同法人クリニックがかかりつけ医になっており、受診後は家族に報告している。他の病院へは家族が付き添い、結果の報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	土・日・祝・夜間はホーム専任の看護師が週2回の勤務の他に24時間オンコールとし、連絡可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院したときは、情報提供書を提出し入院先の病院関係者と情報交換するよう努めている。入院後は見舞いに伺い安心して頂けるよう対応している。又ご家族様や医師との連携を図り、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化してきたときは、できるだけ早い時期からご家族様と話し合いを持ち、かかりつけ医師や看護師を中心に方針を共有し、同法人の病院や施設関係者と相談し支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応については入居時に説明し、早い時期から家族と話し合い、方針を決めている。同法人のバックアップをもとに病院や施設と連携し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習も受けており、事故発生時における初期対応については、職員会議等で看護師の研修を受け、知識と対応を学んでいる。又マニュアルも設置し事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や消火センターの協力を得て昼夜の火災を想定した合同避難訓練を年2回実施している。町内会に協力頂き地域住民を含めた訓練を行い、災害対策マニュアル作成の話し合いを持っている。又災害備蓄品の整備も行っている。	地域住民や消防署と連携を取り、参加・協力を得ながら避難訓練を定期的に行っている。災害対策マニュアルや避難経路・避難マップも作成し、町内・家族にも周知徹底している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護の研修を行い、個人ファイルは鍵の掛かるロッカーに保管している。常に敬意・尊敬の心を持ち言葉掛けや対応をしている。	常に尊敬の気持ちを持って、声のかけ方や目線に気をつけて対応している。入浴・排泄介助におけるプライバシーの確保としてカーテンで目隠しをするなどして配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から思いや希望をくみ取るよう努めている。外食やレクリエーションでも本人の意思を尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事の時間、入浴希望など入居者様の意思を優先し、その人らしいペースや生活感を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容師が来ている。希望によっては訪問美容以外の美容室にも行っている。ドライマークなどの衣料も本人の気持ちを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて食事の下ごしらえ、調理、盛り付け等参加頂いている。又季節に合わせた献立(焼き肉・流しソーメン・おはぎ作り等)それぞれの嗜好品を取り入れた外食や出前も楽しんでいる。	毎月の給食会議で好みや要望を取り入れたメニューを決めている。利用者と職員と一緒に漬物やおはぎなどを手作りしたり、出前や外食などもあり食事を楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を立て、毎日食事量・水分量を一人ひとりチェックし記録に残している。日々の状態に合わせた栄養・水分量のバランスが確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。一人ひとりに合わせた見守りや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、リハパンから布パンツへ、パットも尿量に合わせた大きさに変えていくなどの対応を行い、全員トイレで排泄しています。	夜間のみポータブルトイレの使用が一部あるが、全員トイレで排泄し、自立している。声がけ、見守り、手引き歩行などの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便のために食事の工夫・水分摂取量・運動も取り入れている。日々排便の確認を下剤の調整、減少に向け対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい気持ちを大切に希望に合わせて、楽しんで頂けるようにしている。又午前の入浴や失禁・発汗などその時々に応じて入浴を行い清潔を保っている。	週に2～3回の入浴となっているが、希望に応じていつでも入浴できるよう対応している。入浴を楽しみ、清潔を保つよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の軽い休息やソファでの休息が安心という入居者様には安楽な姿勢で休んで頂くなど、一人ひとりの状況に合った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は看護師がしている。月1回の受診時などで服薬の変更があった場合などは、職員全員に情報が行くよう申し送り・ノートに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・嗜好・生活歴に合わせたお手伝いやサークル活動への参加、外出や季節毎の行事で日常変化を持って頂き、気分転換や楽しみを見つけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム行事として全員でバスレクに出掛けたり、ユニット行事としてショッピングセンターへの買い物や外食、散歩を兼ね近くのコンビニにも出掛けている。又ご家族様との外出も積極的に支援している。	天気の良い日には散歩をして、近所のコンビニや飲食店へも頻繁に行っている。テラスでプランターに野菜や花を育てるなど楽しみながら外気に触れるようにしている。行事のバスレクで遠出をしたり、ショッピングセンターへ行ったり積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様、ご家族様と相談してお金の所持をしている。又買い物レクなどでご本人による金銭の精算も支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話を頂いたり、近況報告を兼ねた葉書のやりとりで、大切な方との繋がりを大事にできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは常に明るく、飾り付けは季節感を取り入れている。写真を貼るときは直に止めないよう暖かい雰囲気作りを工夫している。	風通しが良いので夏の暑さも快適に過ごすことが出来、居間兼食堂は窓が大きくて日当たりが良く日中はほとんどそこで過ごしている。廊下には手作りの作品や写真が貼られていて明るい雰囲気になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを廊下の所々に置き、窓からの景色を眺めながらくつろいで頂いている。小上がりやフロアでお好きなことをしたり、気の合う人と過ごせる様空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の使い慣れた家具や、思い出の品・写真等ご家族様に協力して頂き、居心地の良い環境作りをしている。	作り付けのクローゼットがあり、使い慣れたたんすなどを持ち込んでいる。写真や自分の作品などを飾り、居室内で心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行が出来るよう手摺りを設置し、一休みもできるよう椅子も置いている。又長い廊下を活用し歩行訓練を行い、身体機能の維持に努めている。		